

議会だより

ワットサム

※「ワットサム」とはアイヌ語でワット（これの木）・サム（傍）という意味で、わっさむの由来です。

第114号 2024年2月5日

P 13 今回の表紙

「農家を支える会社のホープ」

- P 2 議会報告会・商工会青年部意見交換会
- P 5 議長年頭あいさつ
- P 6 こんなことが決まりました 4ヶ月水道基本料金免除
- P 8 一般質問 3議員が登壇
- P 11 上士幌町・芽室町・浦幌町行政視察報告
- P 14 町民インタビュー聞かせて 卓球協会の生徒達へ



株式
会社

丸×商会

43名の町民と活発な意見交換

町民の意見・要望を議会へ反映



▲松岡・北原・東山自治会対象に行われた議会報告会

令和5年11月9日に三和・菊野自治会館と東山自治会館、10日は町民センターと中和自治会館で議会報告会を開催し、43名の町民が参加されました。

各委員会から議会活動の報告のあと、皆さんから意見等を伺いました。

意見内容、会場での回答、その後の対応は各自治会長へ書面で報告し、和寒町議会ホームページで公開します。

今回は、一部を抜粋して掲載します。



意見交換

ふくしのまちづくり

Q 「プロポーザル方式」の内容と設計はいつですか。

A 町が、基準や条件をつけたプロポーザル方式では4社応募があり、その中から社会福祉法人ゆうつと建築会社tecoco（テコ）の共同体に決まりました。

数回の町民とのワークショップや大学の先生の講演を実施し、年度内に基本構想と基本設計を策定する予定です。

※ワークショップ：参加者が主体性をもって参加するイベントのこと。
知識を得るだけではなく、幅広い層の考えに触れられる。

ごみの収集

Q ごみ袋に名前を書くのはいつまで続けますか。

A 有料化前に鷹栖町に視察に行きまして、名前を書いて出すことで、分別が徹底されていました。今後ルールを守っていただくためにも、当面の間見守っていただきたいと思います。



▲中和自治会館



▲町民センター1階子ども会室

スクールバス

Q 帰りのスクールバスは、小学生の下校時間に合わせて運行されており、小学校が早く終わったら中学生が乗れなくなるので対応してほしい。

A 教育委員会へ改善に向けて要望します。

◎その後、教育委員会から建設課と小中学校で検討しますと回答がありました。

町表彰式記念品

Q 町表彰式では和寒町在住60年で80歳以上の方に記念盾が贈られますが、置くところに困っています。

A 行政へ伝えます。

◎その後、総務課から令和6年度から盾を表彰状に見直す予定と回答がありました。

塩狩峠周辺整備

Q 塩狩峠公園周辺に観光をする所が少ないと思いますが、今後の考えは。

A 今後、町民の集いや民間がイベントなどで使用していくのとことです。

議会では、「維持費以外にお金をかける価値があるかは不透明」や「トイレが必要ではないか」との話も出ています。

今後、観光地として適切に議論を深めていきます。



▲三和・菊野自治会館

熊対策

Q 熊が出没して、自転車通学している子どもが心配なので対策してほしい。

A 全国的に熊の出没で被害が出ており、北海道も死傷者が出ているので行政と対応を図っています。

議会報告会の追跡

Q 前回の議会報告会で話した後、どうなったかという追跡はないのでしょうか。

A いただいたご意見は、議会では整理し行政への返答も含めてまとめていますが、議会だよりに全部を掲載することができませんでした。

報告できなかったことについては申し訳ありませんでした。12月27日に自治会長へ結果報告書を届けました。



▲商工会青年部が議員席で発言しました。

イベントの必要性で青年部からは「和寒町に人を呼び込むためにはイベントは必要だが、部員数が減っている。」議員からは「他団体などとの目的を共有し協力したらイベントができるのではないか。」との意見がありました。

和寒町の未来では青年部から、他町の成功事例の比較から更なる新規事業者への補助事業の提案や地域おこし協力

来たいと思ってもらえるまちづくりを

令和5年12月13日に、町議会議員と商工会青年部との意見交換会を行いました。

総務経済常任委員会が主催し、意見交換会としては初めて議場で開催しました。

更なる新規開業の補助・雇用対策で活性化を



▲議場で商工会青年部のみなさんと

隊、事業継承、空き店舗の活用などで活発に議論しました。

いただいた意見や提案は、今後議会で検証し町政に反映できるよう努めます。

議会との意見交換会大募集！！

お気軽にお申込みください

議会では、意見交換会を希望される町内の各種団体やグループを募集しています。
参加人数は5名以上、あらかじめテーマを決めていただき
議会事務局までお申込みください。
日程、場所等の調整をさせていただきます。

和寒町役場 3階 議会事務局 TEL 0165-32-2436 FAX 0165-32-4238
E-mail gikai@town.wassamu.hokkaido.jp

初

議場で商工会青年部と意見交換

新春を迎えて
和寒町議会議長 中原 浩一

町民の皆様におかれましては、令和6年の新春をご家族お揃いでお迎えできましたことに心からお慶び申し上げます。

元日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

被災地域の日も早い復旧・復興を願っております。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスは2類から5類へと変更され、コロナ禍前の生活様式に戻りつつあります。

一方、地球温暖化の影響による局地的な豪雨や、夏場の猛暑に見舞われた。厳しい年でした。

また、ロシアのウクライナ侵攻の長期化やイラエルの内戦などにより、多くを輸入に頼る我が国

は円安の影響もあり、燃料や食料などの物価高騰は、生活や経済を直撃し一層厳しさを増しました。物価高騰対策として、子育て世帯や高齢者等への支援、プレミアム商品券の追加販売、水道基本料金減免などを議決させていただきました。

今後とも町民の生活や福祉の向上に議会一丸となつて努めてまいります。

昨年議会では、1常任委員会となり、活性化等特別委員会を新たに設置し、議案審議や委員会活動、研修、行政視察などを重ね、町民皆様の意見を十分聞き取れる体制づくりを構築し、町政や予算に反映したいと考えております。

町民皆様にとって希望に満ちた明るい年になりますよう、益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。



議長 中原 浩一
副議長 石田 利美

総務経済常任委員会

委員長 窪田 裕二
副委員長 小野田 久美子
委員 石田 利美
委員 酒向 勤
委員 村岡 敏一
委員 池澤 哲也
委員 遠山 優太

議会運営委員会

委員長 酒向 勤
副委員長 池澤 哲也
委員 石田 利美
委員 窪田 裕二

議会広報委員会

委員長 小野田 久美子
副委員長 遠山 優太
委員 村岡 敏一
委員 池澤 哲也

議会活性化等特別委員会

委員長 小野田 久美子
副委員長 池澤 哲也
委員 石田 利美
委員 酒向 勤
委員 村岡 敏一
委員 遠山 優太

議会選出監査委員

村岡 敏一

1月、3月請求分（4ヶ月）対象

水道基本料金免除

12月
定例会



▲暖房の関係もあり沖縄の生活と比べて光熱費がかかり大変だったので、水道料金の減免は嬉しいです。
(沖縄から移住して3年の宮城さんご家族)

第4回定例会は、12月18日～19日で開催しました。
奥山町長の行政報告のあと、3名の議員が一般質問を行いました。
その後、条例の一部改正や補正予算等の審議が行われ、すべて原案のとおり可決しました。

町民・事業者に対しての物価高騰対策

国の物価高騰対応重点支援地方創生交付金を活用して、水道基本料金の免除や助成をします。

(829万円)

簡易水道契約の場合

簡易水道料金の基本料金1月（10月、11月使用分）と3月（12月、1月使用分）請求分を免除します。
申請は不要です。

区 分	基本料金
一 般 用	1,200円
営 業 用	3,200円
団 体 用	3,200円

営農飲雑用施設から給水の場合

給水を受けている世帯数に、それぞれ月額基本料金の4ヶ月分を乗じた額を各施設管理者に助成し、対象世帯からの徴収をその間免除します。

区 分	基本料金
西 和 地 区	1,000円
	500円
	2,500円
福 原 地 区	1,250円

それ以外で地下水等利用の場合

水道未契約世帯の世帯主に商品券（500円券）4枚を申請に基づき交付します。

小中学校にエアコン設置へ

有利な補助金活用で来年夏工事完了予定

近年の記録的な猛暑を受け、本町では子どもを守る環境整備のため、学校へのエアコン設置を計画しています。

問 エアコン設置はいつで財源

はどうするのか。

答 来年度には設置したい。

財源は国の有利な補助金等を活用し、事業費に充てていく。

問 道内の多くの学校でエアコン設置が予定されている。

在庫や工事の関係で、夏に間に合わない場合の対応は。

答 来年度は暑さ対策として夏休みは現在より3日多い30日、冬休みは現在より3日少ない20日とする。

産前産後の国民健康保険税の免除措置

令和6年1月より出産被保険者に係る産前産後期間の所得割・均等割の保険税の免除をします。

対象者は、和寒町の国民健康保険に加入し、妊娠85日（4ヶ月）以降に出産した方。

死産、流産、人口妊娠中絶も対象となります。

補正予算一覧表

(1万円未満切捨て表記)

一般会計	補正額	補正前の額	補正後の額
	3275万円	46億6654万円	46億9929万円
総務費	7560万円	会計年度任用職員報酬、各種手当、子育て応援助成金ほか	
民生費	△454万円	住民基本台帳システム改修業務委託ほか	
衛生費	△2213万円	会計年度任用職員各種手当ほか	
農林業費	35万円	会計年度任用職員報酬、各種手当	
消防費	△575万円	職員給料、各種手当ほか	
教育費	1017万円	小中学校空調設備設置工事実施設計業務委託ほか	
公債費	△16万円	償還元金、償還利子	
給与費	△2077万円	職員退職手当組合負担金、職員共済費、雇用保険料	
国民健康保険 (保険事業勘定)	△142万円	職員及び会計年度任用職員報酬、各種手当ほか	
国民健康保険 (診療所施設勘定)	△294万円	職員退職手当組合負担金、健診システム改修業務委託	
簡易水道事業	285万円	公営企業会計法適用化業務委託、配水池改修工事ほか	
下水道事業	△2688万円	公営企業会計法適用化業務委託、下水終末処理場改修工事ほか	
介護保険 (保険事業勘定)	△59万円	職員給料、各種手当、退職手当負担金、共済費	
介護保険 (介護サービス勘定)	△74万円	職員給料、各種手当、退職手当負担金、共済費	

選挙

選挙管理委員と同補充員の選挙は議長の指名推薦で行われ、次の方々が当選人となりました。

選挙管理委員

茶田 有正
山住 浩
西田きみ子
高岡 純孝

補充員

川江 峰
濱田 敏史
白玉真太郎
今北真由美

意見書

高温障害による農作物被害など厳しい情勢に見舞われる農業者の救済措置を

提出者 池澤 哲也

意見書は可決し、関係行政省庁などに提出しました。

詳細は、和寒町ホームページの議会事務局、またはQRコードからご覧ください。



問 人口減少対策の抜本的な取り組みは

答 ふくしのまちづくり構想を
きっかけに先進的施策に取り組む



遠山優太議員



具体的な人口減少対策は

本町の人口は、昭和31年の1万1736人をピークに現在は3000人を下回り、急速な人口減少が深刻化している。

近年は、都市部から地方移住が増え田舎の魅力に注目が集まる一方で、自治体毎の主体性が求められ他市町村との差別化を図り対策を推進していく必要があると考えるが。

奥山町長

まち・ひと・しごと創生総合



戦略に基づき、各種事業を進めてきたが平成27年度から令和4年度まで合計670人の人口が減少している。

この対策として、移住体験事業や空き家・空き地バンクの紹介、エココテージを活用した移住促進を行っている。

今後は、ふくしのまちづくり構想をきっかけに全国から注目されるような先進的施策に取り組み、全国的なモデルになるような事業にすることが重要であり、官民連携を強化して取り組んでいく。和寒町の魅力を発信し関係人口から交流人口、そし

て移住に繋げていきたい。

○再質問

国の地方創生移住支援事業で、北海道の136市町村が移住対象連携となる一方で、本町が対象となっていない背景は。

総務課長

平成31年に国から実施計画の作成及び提出を求められていたが、他の事業もあり見送った。

○再質問

平成27年度から実施している奨学金貸付金減免制度の利用者は、現在2名しかない。

奨学金支援事業は、抜本的対策に乗り出している自治体もあり、本町も制度や支援内容の拡充、対象者の見直し等の検討が必要ではないか。

沓澤教育長

国の動向に注視しながら、支援内容や奨学資金等の在り方を改めて検討していく。

村岡敏一議員



問 地域おこし協力隊の今後は

答 課題解決と定住へ

これまでの活動実績の
評価は

総務省は、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の充実・強化を図る取り組みとして地域おこし協力隊制度を創設した。

本町では22年度から募集を開始しているが現在までの実績と評価は。

奥山町長

募集以来の活動実績内訳は、開業や就業しながら居住後転出された方が2名、3年間の任期を経ずに途中退任者が3名、麴工房を開業された方が1名、農業分野で現在活動中の方が1名の合計7名。

評価は当初、地域おこしに活かせる活動を本人から提案する企画提案型で採用したが、1期生から隊員に対する活動中のサポートが不十分であるとの指摘を受けた。

以後、受入体制の確保、3年後の定住に向けた明確な目標にするため、昨年度から新規就農者を受け入れる「地域担い手育成センター」を設立し、相談や



▲自家栽培したメロンを売る坂口協力隊員

支援に対応できる集落支援員を配置し就農の選択肢を拡げる観点から施設園芸ハウス等の環境整備をしている。

○再質問

新規就農希望者の応募状況は。

奥山町長

就農希望者として、令和5年12月に、令和6年4月からの隊員として正式応募があった。

○再質問

令和6年度、問題解決型地域おこし協力隊員の募集内容は。

辻副町長

農業分野以外に、移住定住、デジタル化、情報発信、子育て支援といった本町が抱える課題の中での複数分野で募集を考えている。

○再質問

隊員が活力を生みだし定住していただく上で、任務3年後の本町の対応は。

奥山町長

隊員のサポート体制を構築し、将来も和寒で暮らし続ける環境は、本人だけでなく、周囲の理解や環境が大切だと思う。定住できる環境づくりをしていく。

問 部活動の地域移行による現状と課題は 答 6年度の準備委員会で協議

問 ふるさと納税の専門部署設置の考えは 答 現体制を維持しながら進める



窪田裕二議員



部活動の地域移行による
現状と課題は

令和5年度から「和寒町部活動のあり方検討協議会」を設置、その後数回会議が開かれているが、

- ①進捗状況は
- ②財源確保は
- ③近隣市町村との連携と移動手段は。

沓澤教育長

昨年6月、講師を招き教職員・保護者・スポーツ・文化団体関係者を対象に説明した。

その後、8月に関係者・保護者など11名からなる第一回あり方検討協議会を開催、11月には保護者・教職員からのアンケートをもとに協議した。

今年2月には、第三回目の会議を開催して教育委員会に提言書を提出できるように進めている。

財源と移動手段については令和6年度、新たに組織する準備委員会の中で協議していく。

○再質問

急激に子ども達が減る中、

年々環境も変化しているが、財源問題や他市町村との協議も必要ではないのか。

沓澤教育長

合同部活動・交通費・報酬などは、今後の提言書の中で出てくると考える。



▲和寒中学校野球部の集合写真

ふるさと納税や移住定住などの専門部署設置の考えは

和寒町のふるさと納税は、5800万円をピークに現在は、3000万円前後になっている。

以前から、専門部署設置の提案はしているが現在も行われていない。

寄付額が増えることで移住定住などの事業を行えると考え

- が、
- ①設置出来なかった理由と今後の設置予定は
- ②令和6年度の目標と計画は
- ③委託の考えは

奥山町長

現在の職員数では専門部署に人員を配置することが困難なため、今後設置する考えはない。

令和6年度の目標と計画は、5000万円を目標に進め、インターネット上の返礼品が上位に来るような対策に取組む。

委託は、令和6年度の地域おこし協力隊の募集の中で考えていく。

十勝・上士幌町

移住定住・地域おこし協力隊で人口増

人口減少を食い止め都会の若者を呼び込む

上士幌町を身近に感じてもらうために、年に1度大阪・東京での北海道移住交流フェアなどや、オンラインで上士幌暮らしセミナーを実施しています。
生活体験や移住に関する窓口は、特定非営利活動法人上士幌こ

希望者へ無理のない
納得いく移住促進

令和5年11月16日、和寒町で以前より課題になっていた移住定住・ふるさと納税について、先進地である十勝管内北部の上士幌町へ行政視察を行いました。



▲移住・定住などのパンフレットをわかりやすく作成し情報提供している

上士幌町 (平成22年～令和5年)
地域おこし協力隊定着率
56名中 21人 37%
現在の隊員数 19人

和寒町 (平成22年～令和5年)
地域おこし協力隊定着率
7名中 1人 14%
現在の隊員数 1人

地域おこし協力隊は任期終了後、現在21人が住民として町職員や開業などで活躍されています。

地域おこし協力隊
任期後に定住

ンシエルジユが運営し、地元の特産品のインターネット販売、ふるさと納税の受託事業も展開しています。
移住への不安を解消するための「ちよつと暮らし生活体験モニター」は、短期（利用期間が1週間から1ヶ月程度）と中長期（利用期間が1ヶ月以上から1年程度）あり、新築や社員寮を買い上げて改築し実施しています。

移住・定住促進 地域おこし協力隊、ふるさと納税は、本町が抱える少子高齢化、人材不足、財源確保など様々な問題を解決させるための重要な事業と捉え、精度を上げて取り組むべきと考えます。



▲ふるさと納税寄付金で事業化した自動運転バス運行

上士幌町の令和3年度ふるさと納税寄付額は15億円、平成20年度から令和元年度の合計で100億円を突破しました。
ふるさと納税の返礼品は約100種類あり、特に返礼品の9割を占める肉やアイス、チーズを酪農家が生産し6次産業化しています。

リピーターの多い、ふるさと納税で地域活性化

上士幌町…十勝北部。人口4,791人（令和5年10月末）高齢化率約35%。
基幹産業は農業。

芽室町議会 ※ 町村議会改革度ランキング9年連続全国1位

議会改革は

住民の福祉向上をどう達成するか

上士幌町の視察後、芽室町議会へ議会運営の取組みについて行政視察を行いました。

議会改革の背景、議会基本条例の制定、議会活性化計画・実行計画、政策形成サイクル（議会が住民の声を政策化する仕組み）、ICT（情報通信技術）の推進について説明がありました。

今後、議会の見える化を推進するために議会モニター、町民との意見交換会や情報公開としてSNS（フェイスブック）の活用、議会白書作成など、議会機能の強化として議員間討議を通じて町に政策提言できるよう調査・研究に努めます。



▲活発な意見交換があった質疑応答

芽室町…十勝中部（帯広市に隣接）
人口17,943人（令和5年10月末）
高齢化率 約30%
基幹産業は農業。
工業は食料品製造工場中心に発展
ふるさと納税額 2億7千万円
（令和4年度）
議員定数 16人

議会が変われば
「まち」も「住民」も変わる

浦幌町議会

町村議会改革度ランキング全国9位



▲浦幌町議会の議場で、議員のみなさんと

浦幌町…十勝東部（太平洋側）
人口4,228人（令和5年10月末）
高齢化率 約42%
基幹産業は農業。漁業も盛ん。
ふるさと納税額 9千万円（令和4年度）
議員定数 11人

立候補のハードルを下げて

若い人や女性が議員になれる仕組みを

11月17日に浦幌町議会へ議会運営の取組みについて行政視察を行いました。

議員のなり手不足対策として、議員の報酬を月21万2千円に引き上げ、議会モニター制度の導入や会議規則に出生・育児休業を認めるようにしました。

前回の選挙ではUターンされた若い方が議員になり、令和5年4月の統一地方選では、26歳から31歳の女性議員3人が初当選されました。

今回の視察で、課題になっている議員のなり手不足解消の解決のヒントとして、今後議論を深めて課題解決に努めます。

議員のなり手不足解消へ
議員選挙で若い女性3人初当選

※議会改革度ランキング…早稲田大学マニフェスト研究所が全国の都道府県・市区町村の議会へアンケートを行い、情報共有・住民参加・議会機能強化の各項目の点数を足して順位化。

追跡! あのバス待合所どうなった?

昨年9月定例会で町営バスがデマンド方式に変更となり、バス待合所が不要になったことから購入希望者に売却されましたが、その後どのように利用されているのか一部を追跡調査しました。

虫除けのためにポニーの家



福原・山のカフェ KAKURE（覚礼）で2棟を購入（奥にもう1棟あり）しポニーの家として使用されています。



和寒の住民経由で剣淵町西原へ。今春に内装工事をし、卵など農産物の無人販売所に使う予定です。

農産物の無人販売所

定例会・臨時会の議案と議決結果、意見書は和寒町ホームページの議会事務局で公開中！



議会へのご意見、お問い合わせは下記まで

gikai@town.wassamu.lg.jp

議会動画閲覧統計

令和5年9月定例会

一般質問 4 人

総再生回数 397 回

総再生時間 35.9 時間



今回の表紙

株式会社丸ノ商会で勤続10年になる和寒町出身の大内涼平さんです。

紹介をきっかけに入社した大内さんは、農家の方に農薬や肥料の販売をしたり、収穫物を買収する仕事をしています。

特に秋の時期は忙しいですが、この仕事がつきかたで農家の方と関わりを持つことができ、多くの出会いが仕事の醍醐味とお話してくれました。

人の顔を覚えるのが特技の大内さんは、仕事に落ち着いている時期には仲間と趣味のボウリングを楽しんでいるとのこと。





町民インタビュー 聞かせて

地域を超えて



1月10日、和寒町卓球協会の小中学生と指導者の皆さんに、総合体育館でお話を聞かせていただきました。

活動内容は？

毎週水曜日、19時から21時まで総合体育館で練習しています。

人数が少なく少年団ではありませんが、小中学生4名で活動しています。

練習内容は？

基礎練習や玉を素早く取るためのフットワーク練習、大会に勝つことをイメージしたゲーム練習をしています。

練習は面白い？

スマッシュや突つき、ゲーム練習は楽しいけど、バックやフットワーク練習はあまり好きじゃない。

どんな目標あるかな？

(中学生) 練習を頑張つて、全道大会では2勝以上したい。

中学校いっても続けたい？

(小学生) 中学校でも部活に入つて続けたいです。

指導者にインタビュー

町外からも来られて指導されていますね。

以前から、和寒との交流がありました。

卓球をする学生も減少するばかりですし、指導する方も、それぞれの事情でできなくなっているのが現状です。

頑張っている学生を応援したい気持ちがあつて、私達も楽しく触れ合いながらやっていますし、保護者の方にもお手伝いさせていただかっています。



保護者にインタビュー

幅広い年代との練習が良いですね。

今後、部活動の地域移行が進められていく中で、この練習風景は良いモデルのように思います。

また、練習環境も整っており申し分ありません。高齢の指導者から見ると孫の存在の方との練習は、時にライバルとしての関係を感じさせる場面もあり、お互いに良い刺激になっていると思います。



広報委員の一言

辰年の幕開けは、能登半島の震災と航空事故といった衝撃の事態から始まった。

本町も、洪水やブラックアウトを経験してきたが、地震による火災や住宅倒壊での圧死は、この地でもあり得ることが想像される。

道北地方での地震は、これまで極めて低い確立と言われてきたが、忘れたころにやってくるのが天災。

地球は環境破壊によって沸騰化に向かっているようだが、次世代にこれ以上付けを回さないように、今やれることは何か、今一度考えてみたいですね。(敏一)

議会傍聴のご案内

定例会の予定

2月28日、3月4日

3月7日、3月14日

みなさまのお越しをお待ちしています

12月定例会の傍聴者

8名